FAX: 0942-44-8257

平成２３年４月３日

久留米大学附設中学校・高等学校御中
吉川　敦校長先生御机下

謹啓

桜花の候、教職員の方々、生徒の方々におかれましては、益々ご清祥のことと存じます。また、３月には多くの優れた人材を送り出し、４月には新たに向学心あふれる人材を迎えられること心からお慶び申し上げます。

私は中学 15 回生、高校 37 回生の松本義久でございます。2008 年に進路講座にお呼び頂きました。私は貴校卒業後、東大理Ｉに入学し、理学部生物化学科、大学院を経て、９年近く東大医学部で助手を務めた後、2006 年 12 月より東京工業大学原子炉工学研究所に着任致しました。

ご存知の通り、去る 3 月 11 日の地震およびそれに伴う津波により、東日本特に、東北地方は大きな被害を受けました。また、その影響で福島第一原発が予断を許さぬ状況におかれていることは、またご存知の通りです。その後、各地で放射性物質が検出され、国民の皆さんの不安が増しているところです。この状況の中、私は放射線生物影響の一学徒と致しまして、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などで解説を行っているところです。教職員、生徒の皆さんでも、私が卒業生であることをご存知か否かに関わらず、ご覧頂いた方もいらっしゃるかと思います。雑誌では、発売中の「週刊女性」「週刊新潮」に私へのインタビューも含めた記事が出ています。また、3/26(土)の産經新聞にも記事が出ております。

私はもともとテレビが好きではなく、その情報にも信頼をおいていませんでした。私の在学中には寮にテレビがなかったこと（私自身は自宅通学生でしたが）はご存知かも知れません。当時の世良校長先生は、「テレビを見て、電波ダルマになるな」と繰返しおっしゃっていました。それが、こうしてテレビ出演を続けているのも、放射線生物影響の真実を伝えなければならないという信念からであります。私がこのような強い信念を持つのは、貴校で受けた教育の賜物であると思っております。テレビの中では、6 回生の鳥越俊太郎さん、39 回生の堀江貴文さんとも共演する機会がありました。立場は違えど、今の日本を何かをしなければならないということだけは通じるものがあると思います。私

の中で、格調高き貴校の校歌がだんだん鮮明に思い出されてきました。

一番「高良山下の／学園に／万朶の桜／咲き揃い／若き血潮の／高鳴るを／見ずや希望の／揺籃地」

これぞ、まさしく私が入学した時の希望、6 年間で抱き続けてきた気持ち、卒業するときには科学者となって人類の叡智の深化に貢献するという決意であります。

そして、三番「修羅道の世を／救うべく／平和の偉業／任として／築く不朽の／真善美／見ずや我らの／大使命」

これが、今直面していることに他ならないと思います。研究の方は思った通りにならないことが多々ありましたが、長年勉強、研究を続けていれば、いつか何かの役に立つことがあるのだと強く感じました。今の瞬間だけでなく、放射線との長い付き合いが続いて行く中で、研究者として取り組まなければならない新たな課題も出てきました。

この状況が落ち着いたら、私の誇りとする母校を訪ね、先生、職員、生徒の方々に放射線のことをお話したいと思います。そして、この校歌を大きな声で力一杯歌いたいと思います。（余計なことかも知れませんが、私の方から久しぶりに訪ねてみたいという希望で、出演料その他を還元する社会貢献や恩返しの一環と考えております。）

新年度を迎えられ、貴校の益々の発展を心からお祈り申し上げます。また、機会がありましたら、私の不器用ながら真摯な活動をお見守り下さいますと幸いです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

東京工業大学　原子炉工学研究所
准教授　松本　義久